



みのる法律事務所便り

第369号

令和3年1月

いなべん だべんく  
田舎弁護士の駄弁句

みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒021-0853  
岩手県一関市字相去57番地5  
TEL : 0191-23-8960  
FAX : 0191-23-8950



85

やりたくも やれない時は きっと来る

やれる時には やるだけやるさ



令和3年1月1日

青空浮世乃捨

子供の頃から、元旦には「今年は何をやろうか」と考えました。「日記を付けよう」とか「散歩をしよう」は定番でした。どちらも三日坊主で終わりました。正月休み中に「今年も出来ない」という事になりました。そんなことを繰り返しているうちに、後期高齢者となりました。

今年も、机に向かって「今年は何をやろうか」と考えていました。ふと「そのうち、やりたくてもやれない時が来る」という思いが湧いて来ました。もう既に散歩はやれなくなりました。何とか、家の廊下を何往復かしていますが、それもいつまで出来るのでしょうか。

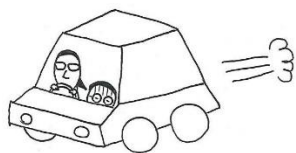
そんな気持ちになって、しょぼくしていたら、いつもの反骨精神<sup>はんこつ</sup>が湧いて来ました。「やれなくなったら、その時に考えればいい。やれる間は、やればよい」という思いが湧いて来たのです。

そんな思いは湧いたのですが、何をやりたいかは、この歳になりますと特別湧いて来ません。やりたいことは『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』の実践です。コツコツとそれを積み重ねるだけです。

この哲学は、盆が来ようが、正月が来ようが変わらないのです。去年も今年も来年も同じです。この哲学は、いつでも変わらないのです。いつでもこの哲学を実践するだけです。そう気付いたら「やれる時に、やれることをやればよい」と気が楽になりました。

いなべん だべんく  
田舎弁護士の駄弁句 ⑧6

やれぬもの やろうとするな そのかわり  
やれるものなら とことんやろう



令和3年1月1日  
青空浮世乃捨

前句を詠んだら、自然にこの句が追っ掛けて出て来ました。これまでやれていたことが、やれなくなったらそれには拘らないで、さっさと諦めて、他にやれることをやればよい、と言う切り替えが大事だと気付きました。

歩くのが出来ないなら、腰掛けたままで、体を動かせばいいのです。大腿骨股関節骨折後、長く歩くことが難しくなりました。毎晩1時間、妻の運転する車の助手席でストレッチ（筋肉や関節などを伸ばす体操）をしています。これなら、長い時間でもできます。

夕食後、8時から9時まで、田舎道を走ります。タヌキ、キツネ、ムジナ、イノシシ、シカ、時にはクマにも出会います。古い演歌を聴きながら、妻と一緒に歌ったり、語ったり、手足を動かし、体を揺すり、柔軟体操を続ける1時間は、至福の時です。

あれが出来なくなっても、これは出来るというものがあります。出来ない事に拘らず、出来る事に切り替える。「それは、それとして」との心の持ち方で『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』を実践するのが、令和3年の目標という結論に落ち着きました。真理は変わらないようです。



## 新刊書の御案内と御挨拶



『いなべんの哲学』シリーズ、第5巻『楽しむとは、どういうことでしょうか』を発刊出来ました。謹呈させて戴きます。

コロナウイルスは、終息するどころか、更に拡大しています。令和3年という新しい年を迎え、皆様と集まってお祝いしたいのですが、さんみつかいひ三密回避が不可欠な状況となっています。

三密を回避しながら、楽しむ方法はないものかと考え、『楽しむとは、どういうことでしょうか』という本を書き、それを親しい方に謹呈するという方法で、令和3年の年頭の御挨拶とさせて戴くことにしました。

この事務所便りをお読み戴いている皆様には、いつものように、イの一番に謹呈させて戴きます。菅政権の「Go To トラベル」、「Go To イート」、「Go To イベント」等の「Go To—」政策は、見直さなければならぬようです。経済より人命を優先させなければならぬ事は当然です。

コロナウイルス問題は、人類対異人類の闘いです。国と国とが闘う戦争を放棄し、全人類が一致団結して、異人類と闘うというこれまでは違う考え方が求められています。国と国との関係は、対立から協調へと変わらなければ、コロナウイルスには勝てないのです。世界中の国という国全体が共通の目標に向かって力を合わせなければならぬのです。世界が一つとならなければならぬのです。外国と敵対するのみならず、国内を分断するような政治家など害毒です。このような人を大統領に選んだ国民は、恥じるべきです。

これまでの考え方を変えなければならぬのは、国と国との関係や、国内の政治だけではありません。人間一人一人の生き方や、人生を楽しむ方法についても言えることです。国という組織だけではなく、人間一人一人も変わらなければならぬのです。物質的に恵まれ、便利な生活が出来るようになった日本人は、金を使い、人と集まり、馴れ

合って楽しむという方向に流されて来ました。自分を磨くことより、集団で馴れ合う人間が多くなったように思えるのです。

楽しむということを見直すチャンスではないでしょうか。人が集まって馴れ合うことの全てが悪いなど言うつもりはありませんが、独りでも人生を楽しむ方法を見付け出したいものです。

人は独りで生まれ、独りで死んで行きます。本来的に絶対孤独なのです。それだけに人恋しく、人との関係に惹かれるのです。人との巡り合わせを大事にし、まわりの人といっしょに楽しむことが最も楽しい生き方となるのは、自然の摂理です。万物を支配する法則です。

他人との関係を大事にすることは人生を楽しむ為には不可欠です。問題は、その接し方にあります。物と金と時間を浪費し、寄り集まり、馴れ合っていないでしょうか。集団の中に埋没していないでしょうか。旅行も会食もイベントも楽しい事ではありますが、やり過ぎていないでしょうか。「馴れる」とは「飼い主に対し、警戒心を捨てて餌を食い、親しみを表すようになる」（三省堂新明解国語辞典）とのことですが、馴れ集うだけではなく、独りでも楽しむことの出来る自分独自の生き方、楽しみ方を持ちたいものです。

神や仏という言葉が適切か、天という言葉が適切かは分かりませんが、人間の力を超えた何か、コロナウイルスという格好で、人間に警鐘を鳴らしているとは思えないでしょうか。

何事に対しても、受け取る人の心次第という事になるのですが、私には、コロナウイルスの感染拡大は、地球上の全人類に対し、国と国とが武力を持って闘うことなど止めなければならないこと、特に核兵器などは持つてはならないと言うことと、一度限りの人生である一人一人の命を大切にするために、その生き方でいいかどうかを見直してみなければならないと、神とか仏とか天とかが言っている気がするのです。それを感じるかどうかは、その人の感性ということになります。今年は感性を磨きたいものです。

今年もよろしくお願ひ致します。

